

“心ある人”、そして進歩

(原文)

平田 創一郎 (20 歳)

愛知県

名古屋大学情報学部

この手紙は 10 年前の私であるあなたに未来の現状を伝えようとするものです。結論から述べるならば、現在は 10 年前より、社会や人々、自然にとって豊かな世の中になっていると言えます。それには、地球市民である私たちの中に“心ある人”がこの 10 年で著しく増加したことが関わっていると言えるでしょう。今からは、その“心ある人”たちを中心として、人々が各方面でどのように思考し、行動し、状況を変えていったか記していこうと思います。

まず、10 年間で起きた最大の変化に繋がることとして、人々による消費生活の見直しがあります。それは正に粗悪や、利便性、効率といったものに対してアンチテーゼを打ち込んでいくものでした。ありあまるほどの食品や雑貨を置いた大きな商店はどんどんすたれていきました。その代わりに、食べ物については、地元の食材が地元の小さな商店などで取引され、食生活の質向上、フードロスの減少、食料自給率の回復が結果として起こります。雑貨については、単一の機械製品が使われなくなり、地元の自然を材料として伝統的な手仕事で作られた製品が用いられるようになりました。人々によって地域の手仕事は盛り上げられ、地場産業発展、地域隆盛に繋がっていきます。更にこの流れは、各国の文化の発展に繋がっていき、ますます地域のアイデンティティーの形成、多様性のひろがりが起こっていきます。

エネルギーについてもその消費される絶対量が徐々に減少してきました。地域からの、ミクロ側からの進歩により、人々はまず、“速さ”をそれほど必要としなくなりました。つまり必要以上の長距離移動・移送が必要なくなってきたのです。さらに、適度な情報技術利用による恩恵も大きなものでした。現在では、第 3 次産業や高等教育の基幹部分も、情報技術によりそのサービスを世界中で受けられるようになってきました。最小限の“速さ”と情報技術利用のための電力の保持になら、従前ほどの化石エネルギーは必要でなくなったのです。

以上のことを筆頭に、現代的な利益を享受しつつ生活の方針を見直すという考え方が、“心ある人”たちを中心として社会に広がりました。なんでもすぐには買えたり、口にできたり便利に生活できる状況からの転換の中で、人々は損失を覚えたのではなく、むしろ本来の生活の豊かさを実感したように思います。少子高齢化による人口減少も、今となってはこの変化への追い風として捉えられています。

人々の心情にも変化がありました。化石のようだったまがいものの豊かさから脱却した人々は、今までの異常な忙しなさ、無用な摩擦からも解放され、互いに優しくなれるようになりました。共感する力、普遍的な愛を人間が取り戻したと言えるような気がします。

このような時代の中で、私は今、自然と機械を融合させたデザインの研究と、世界中に存在する貴重な手仕事文化を、次世代に継承する事業を進めています。特に、10年前までには機械によって壊滅的な打撃を受けていた手仕事文化は、“心ある人”たちが私の考えに賛同してくれたお陰で、無事再生への道をたどりつつあるところです。

しかし、ここまできて私はふと考えています。初めにも書きましたが、これらの進歩は全て、“心ある人”の著しい増加によると言えます。それならば、もし10年前、今あなたがいるその時に、“心ある人々”の著しい増加がなければ現在、そして未来はどうなっていたのか。10年前の状況がもしあのまま続いているならば・・・

でも、やはりそんなことはないでしょう。あなたや人々がそこで考えているように、今でもみなこう考えています。どの人も生きている限り、時間の最先端にいるということ。そして、新たな世代が必ず後ろに続くということ。この考え方が何かによって消えてしまわない限り、きっとあなたの未来は今の私の時間に結びつくことでしょう。あなたたちがそこでできることを続けてください。